

共生ともにあゆむとは

2022.2.26 sat

今大会の開催にあたって

第25回全国地域福祉施設研修会(2020年度)「共生(とも)にいきる」を振り返る。

私たちは、新型コロナウイルス感染拡大のただなかだからこそ行動し共通の理念である地域福祉の在り方を考え、昨年度、第25回全国地域福祉施設研修会を大阪の地で企画し実施しました。「共生(とも)にいきるとは」をテーマとしたその研修会では、「違いを喜び合える社会を目指して」を共通の話題として、金光敏さん(外国にルーツのある子どもの権利)、野坂祐子さん(トラウマインフォームドケア)、伊藤悠子さん(マイツリーペアレンツプログラム)、栗本正則さん(地域での子ども居場所づくり)、濱島淑恵さん(ヤングケアラー)、5名の方を招きパネルディスカッションを実施しました。それぞれの立場と視点から、今、地域で起きている問題とその根っこにある課題について報告をいただきました。いずれのお話も地域で起こっている出来事であり、その課題について話をするなかで、自助・共助・公助の在り方への問題提起がなされ、議論は深まりました。

共生ともに「いきる」から「あゆむ」へ

誰が、何を、どのようにするか。昨年度の研修会の議論を踏まえ、共生について、さらに深めるために今回の研修会ではテーマを「共生(とも)にあゆむとは」としました。

基調講演をお願いしている西野博之さんの活動は行政とのやりとり(協働)や、活動の意義の精力的な発信も含め多岐にわたっています。不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、さまざまな障がいのある方々とともに地域で育ちあう居場所での活動を続けておられます。今回は「誰ひとり取り残さない居場所づくり」をテーマに「共生・多様性・居場所・官民連携・貧困・若者・人権・持続可能性」などをキーワードとしてお話をさせていただきます。

パネルディスカッションは地域福祉施設の現場で働く人たちが自身が考え、自らの言葉で語っていただく形で開催することとしました。日本地域福祉施設協議会加盟施設の職員が、リアルな地域福祉の現場の声を伝えていきます。

パネルディスカッションのテーマは「共生ともにあゆむ~居場所の力を考える~」

東京(城東地協)からは児童館の現場から、名古屋(東海地協)からは障がい福祉の現場、大阪(大地協)からは保育と介護の現場から、5名のパネリストにそれぞれご登壇いただく予定です。地域福祉施設の居場所の力を、パネリストの方々の日常の体験・実践を通して、参加者とともに考えていきたいと思ひます。当日は、地域福祉施設が共生について何ができるのか、何を目指すことができるのか、伝え合い語り合う場としたいと思ひます。

この研修のねらい

私たちは、この研修の成功を参加者に何らかの形でプラスの変化が生じることだと考えました。それは、「地域社会に暮らす人、働く人の幸福」につながるものであり、地域で働く人、地域で関わる人のモチベーションを高め、「共生(とも)にあゆむ」に向かって一歩ふみだすためのエネルギーとなるものでもあると思ひます。そこで今回の研修会では、他者の経験を共有化することによって知らないことを知る。やってもいいことを知る。あらたなやり方を知る。一歩踏み出してもいい境界線があることを知る。その踏み出し方を知る。そういう機会を創りたいと思ひます。

さて、SDGsでも言われている「誰ひとり取り残さない」ために何を

地域福祉はどぶさらいだといった先人がいます。地を這うという表現をした先人もいました。向こう三軒両隣からはじめようと語った先人もいました。街を歩いてますか?と問ひかける先人もいました。かつて今も目の前の事、ミクロな視点での実践を活動の根幹においている。はじめに自分の周囲から始める。どんどん視点を広げていくと、地球規模になる。そのための一歩は隣の人からはじめることだといえる。それは、隣の人の困りごとをみるのではなく、隣の人その人を見るということなのかもしれない。さらにその人と関わりをもつこと、それが人格交流ではないか。施設の中で何ができると思ひ悩んでいたり、どうしていいかわからなかったりする施設職員は多いことでしょう。研修会を終えた時に、施設から街へと踏み出す方、日常業務の枠から一歩踏み出す方、自ら考えあゆみはじめる方が増えることを目指したいと思ひます。

第26回全国研修会実行委員会 委員長 大川明宏

第26回 全国地域福祉施設研修会

共生ともにあゆむとは

2022.2.26 sat

~地域福祉施設は共生をどう実践するか~

日時	2022年2月26日(土) 12:30~17:00(受付12:00~)
アーカイブ 視聴期間	2022年3月1日(火)~3月26日(土)
会場	大阪市社会福祉研修・情報センター 大阪市西成区出町5-2-25 オンライン参加のみ 和路線「今宮」駅、JR・南海「新今宮」駅、大阪メトロ四つ橋線「花園町」駅
主催	日本地域福祉施設協議会 特定非営利活動法人 大阪市地域福祉施設協議会
後援 (予定)	厚生労働省 / 大阪市 / 全国社会福祉協議会 / 大阪市社会福祉協議会 / 大阪市社会事業施設協議会 / 朝日新聞厚生文化事業団 / 毎日新聞大阪社会事業団 / 産経新聞厚生文化事業団 / 大阪ボランティア協会
参加者	住民 / 施設利用者 / 地域福祉施設 (隣保館、児童館、学童保育、デイサービスセンター、特別養護老人ホーム、保育園、他各種社会福祉施設) 職員 / 社会福祉協議会関係者 / 研究会 / 学生 / NPO / ボランティア / 行政関係者
参加費	団体・施設 5,000円 / 個人 2,000円 / 学生 0円 学生応援キャンペーン 無料 オンライン参加のみ 先着 70名
オンライン参加費	施設・団体 10,000円 (5名まで参加可能)、個人 2,000円 学生 0円 (日本地域福祉施設協議会加盟施設・団体 5,000円 / 5名まで参加可能)
申込期間	2022年1月11日(火)~2月18日(金)入金確認をもって先着受付
申込み お問い合わせ	特定非営利活動法人 大阪市地域福祉施設協議会 Tel.06-6633-2965 Fax.06-6633-2970 〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 2-9-2 わかさ保育園内 蕨川晴之(ワラビカワ) 宛 http://www.daichikyo.jp/ 大地協 ☎スマホ・PCからお申し込みください 2021zenkokukensyu@gmail.com ●ご入金確認後、2月中旬に視聴IDをメールでお知らせいたします。



第26回全国地域福祉施設協議会「共生」研修会
申し込み

基調講演

「誰ひとり取り残さない居場所づくり」

にしひろゆき

講師 **西野 博之**さん

認定NPO法人フリースペースたまりは理事長。フリースペースえん川崎市子ども夢パーク各事業総合アドバイザー。

●1986年より不登校児童・生徒や高校中退した若者の居場所づくりにかかわる。1991年、川崎市高津区にフリースペースたまりばを開設。不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、さまざまな障がいのあるひとたちとともに地域で育ちあう場を続けている。2003年7月にオープンした川崎市子ども夢パーク内に、川崎市の委託により公設民営の不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」を開設、その代表を務め、2006年4月より川崎市子ども夢パークの所長に就任。神奈川大学非常勤講師。精神保健福祉士。

●著書に『居場所のちから—生きてるだけですごいんだー』（教育史料出版会）、『西野流「ゆる親」のすすめ（上）7歳までのお守りBOOK～「正しい母さん・父さん」を頑張らない。～』『「ゆる親」のすすめ（下）10歳からの見守りBOOK～だいじょうぶのタネをまこう。～』（ジャパンマシニスト社）等多数。



八重田 裕一郎

社会福祉法人 雲柱社
フレンドリープラザ墨田児童会館 館長

●児童厚生員として2000年4月世田谷区の松原小新 BOP に就職。2001年4月に社会福祉法人雲柱社に転職。墨田区・狛江市・日野市の現場経験を経て現職。
●子どもを主体に置いた運営を心掛け、気軽に話せる居場所、何もしなくても良い空間、子どもの声になる活動等、子どもに寄り添った支援を現場と共に創り上げるのがモットー。コロナ禍で困窮する家庭がある中、今まで培ってきた地域との協働を柱に、更にネットワークを広げ、児童館が地域の包括支援センターとしての役割を目指す。



児童館の現場から

橋本 聡司

一般財団法人本所賀川記念館
フレンドリープラザ東向島児童館 館長

●幼少期に横須賀基督教社会館で育つ。社会福祉士。2004年同法人に入職。学童クラブ、児童館勤務を経て2016年度より現職。
●東地協ではコロナ以前から児童館で行う運動遊びプログラム「JUMP-JAM」の普及に児童健全育成推進財団とともに取り組んできた。現在はコロナ後の地域との関わりをいかにつないでいくかを念頭に、職員目線の勉強会を開催している。児童館館長としての役割を担いながら、地域福祉施設に身をおく後輩を育てる日々を送っている。



児童館の現場から

元田 和宏

社会福祉法人名古屋キリスト教社会館
活動センターねーぶる 管理者

●パティシエを目指して専門学校に通うもすぐに挫折。そんな折障がいを持った子を持つお母さんたちが中心となってつくられた自主組織「重度障害者と未来を拓く会ねーぶる」に出会う。その後、名古屋キリスト教社会館の職員となり、活動センターねーぶるの生活支援員として勤め、2020年より管理者となる。どんなに重い障がいを持っていても、豊かな日中活動があり、地域で安心して暮らせることを願い仕事をしている。



障がい福祉の現場から

共生にあゆむ 居場所の力を考える



●プログラム

- 12:00 受付
- 12:30 開会挨拶 **倉光 慎二**さん (大阪市地域福祉施設協議会 会長)
- 12:35 メッセージ **阿部 志郎**さん (日本地域福祉施設協議会 名誉会長)
- 13:00 **基調講演** 「誰ひとり取り残さない居場所づくり」 **西野 博之**さん
- 14:45 **パネルディスカッション** 「共生にあゆむ～居場所の力を考える～」
パネリスト **八重田裕一郎**さん、**橋本聡司**さん、**元田和宏**さん、**朴喜美子**さん、**山田芳子**さん
- 16:40 まとめ **岸川 洋治**さん (日本地域福祉施設協議会 会長)
- 16:55 閉会挨拶 **西野 伸一**さん (大阪市地域福祉施設協議会 事務局長)
- 17:00 閉会



阿部志郎さん



岸川洋治さん

朴 喜美子

社会福祉法人石井記念愛染園
愛染橋保育園 主任保育士

●1995年4月石井記念愛染園 わかくさ保育園就職。同年9月要保護児童対策地域協議会のルーツといわれている「あいりん子ども連絡会」が設立される。以降活動や取り組みなど様々な機会でも携わる。「あいりん子ども連絡会」発起人であるわかくさ保育園の小笠昭前園長より、子どもとのかかわりや保護者の支援において、「主体はだれなのか？」ということを押さ込まれる。2004年以降法人内の異動を経て現職。当事者としての感性と痛みを忘れず、自分事として捉える「寄り添う支援」を目指しています。



保育の現場から

山田 芳子

社会福祉法人育徳園
特別養護老人ホームいくとく 副施設長

●介護福祉士として1997年4月大阪市阿倍野区にある特別養護老人ホームいくとくへ入職し、介護現場18年、施設ケアマネ、生活相談員などを経て現職。入職から現在までの25年間、特養いくとくで措置入所時代から介護保険制度、地域包括ケアシステム、コロナ禍、制度改正による科学的介護やICT化の流れの中で、徳を育む理念に基づき笑顔・思いやりそして感謝の気持ちをもって、地域で信頼される施設を目指し邁進中です。



介護の現場から

●コーディネーター

くすのき ゆう
楠 勇さん
社会福祉法人阿望仔
望之門保育園 保育士



●保育士。同法人内の学童保育や夜間保育担当を経て、現在3・4・5歳児の異年齢保育を担当。

かわばた りょうすけ
川畑 亮輔さん
社会福祉法人柿の木福祉の園
長居子どもの家 保育士



●保育士、放課後児童支援員。保育園で乳児、幼児の保育を経て、現在同法人内の学童保育を担当。